松桜会報

財団法人　駒場松桜会　東京都目黒区上目黒8の660
都立駒場高校仰光寮TEL (461) 9557　振替口座東京28486

会告

待ちに待った栄えある六十周年の春を迎えました。松桜会の記念事業としての記念誌も一年有余の歳月を費やし、母校先生方の並々ならぬご尽力の結果、四月に発行します。内容も下記のようにおよそ母校や同窓会に関係のある方々にとって又と得られない**貴重な資料**であり座右に一部はぜひ備えておきたいものと思います。寄贈部数以外に**約三千部**刷りましたが諸物価暴騰により印刷費その他も**大略二百万円**を要することとなり、今までの積立金五十万に加えるに広告を集め、有志のご寄附もいただきました。この上は皆さんに一部でも多くの申込みをしていただくことだけとなりました。今までの**申込部数**、学校側約千部、同窓会側八百二十余部。

新しい伝統をつくろう

創立六十周年に際して

学校長　尾崎剛毅

戦災で廃校寸前まで追いつめられた本校が、過去の伝統を礎にして、再び立ち上って十八年、歴代校長と諸方面の愛情とご努力の結果、都立では最も恵まれた一万三千坪の校地を持ち、昨年六月に最新の校舎が完成した。環境整備された第一年目に六十周年の還暦を迎えることは、単なる偶然ではなく、深い因縁があると思う。伝統を内に生かししかも現代の「駒場」としての新生の第一歩を力強く踏み出すのだ。この慶びの春を、私が学校長として迎えることになったが、六十年前、小林校長が、麻布の丘で大きな抱負と感激を持って創立に当たられたお気持を拝察することができる記念誌にも書いたが、「初心忘るべからず」四十余年の「第三高女」の伝統を生かしつつ、またこれを乗り越えて真の「駒場」の伝統を築き上げるのは、我々に課せられた使命である。学校は古く、そして新しくなければならない。

記念誌にのせる「創立のころ」という座談会で、創立当時の先生でただ一人の生存者であられた藤村すゑ氏をお招きしたが、氏も先日八十四才で亡くなられた

年年歳歳花相似
歳歳年年人不同

と昔の詩人も言ったが、人は次々とかわって行く。新しい時代に即して、新しい伝統をつくって行かねばならぬ。以上六十周年を迎えるに当って所懐を述べました。

記念式典挙行近し

……四月二十七日（土）に……

母校では、創立60周年記念行事実行委員会【会長、（PTA会長）水野俊夫、副会長（学校長）尾崎剛毅、（松桜会理事）宮川千代】をつくり、一年がかりで計画を進めていたが、次のように、当日の記念式典、および祝賀行事を行なうことになった。

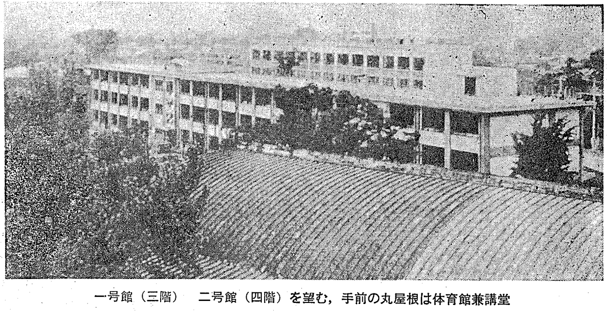
一、式典　10時、本校講堂
一、祝賀パーティ　式典後
一、記念誌の頒布
一、記念展示会　60年の歴史を示すもの（廊下および会議室）
一、生徒会展示会（講堂および廊下）

記念誌に重点を！

この度の記念祝賀行事は記念誌発行に重点がおかれた。本校は戦災のために移転し、資料も乏しい。世の中も一応落ちつき、本校舎もできたこの際に、できるだけそれらの資料を集め、記録しておこうというわけである。同窓会が、記念誌発行の費用を担当し、編集に協力して来た。会員諸氏の原稿を多数依頼したが、快ろよく、またすぐれた原稿を多数よせられ、編集係の先生方にも「さすがに名門ですね」とほめていただいた。また展示用の資料も多く提出して下さったし、これらの方々に厚くお礼を申し上げる。

浩宮さまの保母として

二代目駒場幼稚園長、大熊米子氏（初代は作家古賀残星氏）が、四月から学習院幼稚園主任保母に栄転されました。後任は32南、鹿野京子氏。



一号館（三階）　二号館（四階）を望む，手前の丸屋根は体育館兼講堂

昭和38年度　創立60周年記念　松桜会総会

今年は母校の60周年記念式典の翌日に、記念祝典をかねていたします。記念誌、記念品の頒布、記念展示会などがございますから、ふるって御来場下さい。

場所　母校講堂
日時　四月二十八日（日）　午前十一時～三時

一部　祝賀式典
　議事、報告
二部　舞踊　藤蔭静枝
　ジャズバンド卒業生、在校生
　オーケストラ　在校生
整理券　三百円
（サンドイッチ、紅茶、記念ペンダント付）
模擬店

松桜会の記念事業

一、記念誌の発行（広告欄参照）総額二百万円
一、記念植樹
○泰山木一本及び記念石標
○場所、一号館玄関前、芝生内
一、記念展示会
廊下および会議室

当日、記念誌を頒布します。郵送でなく、なるべく当日取りにお出で下さい。

名簿について

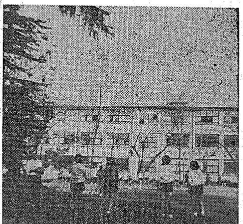
千二百部の申し込みがあり二千部刷りましたが、お蔭で全部売り切れました。なお、製本が悪くて、頁がはずれる場合もありますので、お詫びいたします。訂正の箇所がありましたら御連絡下さい。　係

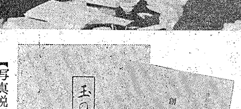
広瀬先生ご長寿祝賀会

先生の米寿の時には、役員の手落ちで祝賀会をいたしませんでした。この度は、多数のご協賛を得てありがとうございます

日時　昭和三十八年五月十九日、午後一時
場所　母校講堂
記念品費　三百円
祝賀会費　二百円
締切り　四月末日

記念誌座談会の時





【写真説明】
上左　座談会（創立のころ）
上右　現校舎
下左　展示される資料の一部
下右　編集風景

東京都立駒場高等學校
創立六十周年記念誌

A5．300頁グラビア多数，美麗ケース入
予定頒価600（送料別）

◆グラビヤ60年史　ひさし髪やもんぺ姿，最新の校舎等
◆座談会

旧校長大いに語る	広瀬先生他4校長
戦災移転のころ	PTA役員他
創立のころ	藤村先生他4名
親子三代	二組の方々
◆体育，芸術課程の設置	長倉旧校長
◆最新式校舎設立	田中前校長
◆旧職員アンケートや消息	85人の先生方の近影

その他　多数の記録，記事

新入会員を迎えて

○………… 仰光寮の縁先の桜の枝も芽ぐんで来て………… ○
○………… 今年も多数の新入会員を迎えた………………… ○

卒業おめでとう

教頭　渡辺　謙

卒業おめでとうございます。うれしかったことは、いつまでもあなた方の追憶として残り、つらかったことやいやなことは、そのゆえにかえってなつかしい思い出となるように希望しています。今日から、同窓会に組み入れられてゆきますが、同窓会は、年輩の人も若い人もいて、何年か同じ校名の生徒で同じ校舎に学び同じ校庭で遊んだそれだけの縁で、終生結びついている集団です。もちろん、中にはこのような集団に反発したり否定したりする方もたまにありますが、その場合でも、反発されたり否定される何かであることは事実です。それに、はじめは興味をもたなかった方も、人生の経験を積んでゆくと、同窓の方に対して、近親感が次第に加わってくるのは不思議なものです。同窓会は、そのような同窓生の気持をよく反映したものが、理想的でしょう。しかし、あなた方が同窓会の一員となった時に、あなた方から眺めて、気に喰わぬことがたくさんあるでしょう。また他の場合と同じように、年輩者と意見の合わない時もたくさんあると思います。しかしただ気に喰わぬといって背を向けてばかりいることは、芸のないことと思います。年輩者からは、永年にわたって風雪にたえてきた貴重な体験談も聞かれるというわけです。また若い人たちだけの集りでは得られないものを与えてくれる筈です。本校のように、六十年を経てくれば、同窓生には年令的にも経験上でも、いろいろの方がおられますが、他の集りでは得られないものを得られて、これから先何年かたって、本校の生徒であったこと、卒業生であることがよかったと感じることがあれば、あなた方自身にとって、一つの幸福ということができるでしょう。またそう願っています。

巣立つ諸君へ

新井次男

古い塵ほこりを払って新しい客を迎える。これを儀式化したものが節分の夜、古い鬼を豆で追い払って明くれば立春、新しい福の神を請じ入れる形として残っている。学校でも卒業式があってから入学式があげられる。ところが卒業生の皆さんは卒業すると同時に同窓会にいれて頂くことになっている。

この一人二役の意味は昆虫界において蛹が蝶になるという自然界の微妙さのように、皆さんが新しく生れかわることではなかろうか。また後れてくる者、即ち諸君を先輩諸氏が迎え入れることによって松桜会は量を増すとともに質的にも発展してゆくことになるのであろう。ここで新しく入会する皆さんは深く考え、種々の意味をこの際かみしめて将来にそなえられんことを。

駒15回クラス幹事

1H	栄井　敬介	水野　万里子
2H	山口　一宏	山田　絢子
3H	野尻　孝篤	中村　雪子
4H	市川　正彦	松下　かほる
5H	尾池　明	豊増　竜子
6H	加藤　明子	馬場　昭枝
保体科	久保田　洋一	藤田　富士子
音楽科	定成　誠一郎	河崎　郁子
美術科	豊田　宏	浜舘　紘子

“駒場は慈母”

栄井敬介

駒場は慈母である。赤ィチ赤丸で三年間、脅かされて来たものの、これは皆の認める所と思う。

先ず我々15回生は小生物と共に数ケ月を兵舎で過ごした。次に、現在は芸術家達の砦たる木造校舎で過した。今となっては懐かしい石炭ストーブの煙にむせながら。最後にスーパーワイドスクリーンの黒板を前に鉄筋コンクリートの新館に移り卒業する。

そして新二号館の完成と同時に入学した今の一年生は、男女の比率も僅かながら変化していわゆる駒場のタイプらしからぬ面も多い。まことに校舎等の環境の変化だけでなく、駒場カラーの変換期でもあった、我々の三年間である。

全く『昨日、今日とは思わざりしを。』である。勿論入学以前より三年で卒業とは知りながら、三年経った今、卒業しなければならないのが不当な気さえする。

駒場は慈母である。しかしながら、今すこし厳父たらん事を、最後に望み、より発展を祈る。

母校と共に前進したい

名和由子

卒業を間近に控えて感慨一入の今日この頃である。幼稚園、小学校、中学校と経て、今度は四度目の卒業のわけだが、私にとっては学生生活に終止符を打ち、社会人になるということで意味慎重である。名門駒場高校に入り憧れのセーラー服を着て一人また一人と友人を開拓して行くことに喜びを感じた一年生の頃。あれからもう三年という月日が経ったとは……。

学校での授業や、対人関係の摩擦、クラブの運営を通して得た私の生活の知恵が、社会において、果してどの程度の応用力を持つかわからない。長い人生にはぶつかる壁も多いことだろう。それを思うと恐ろしい気がしないでもない。しかしどんな場合にも、事物に対して常に新鮮な反応が持てるようでありたい。

歴史ある松桜会の一員としてその伝統の良き面を吸収し、母校と共に私も前進したい。

新任諸先生の感想

○……母校では九名の諸先生を新たに……○
○……お迎えいたしましたので、ご感……○
○……想を、書いていただきました。……○

福村　保（国語）
出身校　教育大学
趣　味　水泳、昼寝、雑談
就任の感想
下町から転任して来て、水が変わって、とまどいしています。住み心地のよかれと祈り念じている現在の心境です。

牧野　洋一（地理）
出身校　広大大学院
趣　味　旅行、地図のコレクション
就任の感想
立派な学校に就任できて嬉しい。生徒達と一緒になって勉強してゆきたい。文明が高度化するにつれ、人間の機械化、つまり人間の方が機械の奴隷になってゆく傾向があるが、その中でやはり自分というものを見失なわないようにと生徒に言いたい。

豊田　良雄（物理）
出身校　東京教育大学
趣　味　映画・音楽鑑賞
就任の感想
環境に恵まれております。私もいろいろと勉強したいと思います。

末松　三郎（国語）
出身校　東大国文学科
趣　味　音楽、園芸
就任の感想
自然に恵まれた、私にとってはなつかしい駒場の里で、大いに学びたいと思っています。

安井　元久（国語）
出身校　東大国文学科
趣　味　無能無芸（音楽？）
就任感想
伝統輝かしい秀才学校という第一印象を受けました。欲を言えば個性的面白味が加われればさらによいと思います。

上条　真一（英語）
出身校　早稲田大学大学院
趣　味　謡曲
就任の感想
明るい伝統の中で、すくすくと伸びる駒場生の知性は透明で清々しい。新校舎のガラスの中に温もっていると早春が、そこまで来ているようで、もう一年も経ったのかと驚ろいています

石川　博朗（数学）
出身校　教育大学数学部
趣　味　旅行、音楽鑑賞
就任の感想
環境がすばらしく、恐らく都内随一でしょう。生徒は誠に幸いだと思います。ただ、全体的にファイトがないようです。

高橋　智子（音楽）
出身校　東京芸大音楽科
趣　味　料理、手芸
就任の感想
〃よい学校〃として伝統あり誇り高いこの学校の空気によくなじんで、自分なりの力をできる限りつくして行きたいと思っております

霜垣　幸雄（数学）
出身校　東京理科大学・立教大学
趣　味　旅
感　想
明るい比較的静かな環境で若い人達と共に勉強できるのが嬉しい。

本年度転退職々員

守屋　重郎　自宅
吉田　元定　都昭和高教頭
松崎　勇　都立工専教諭
林　三郎　杉並区指導主事
鈴木　玲子　自宅

【青葉城趾にて，左より菱苅，福村，渡辺，片寄先生と仙台支部の有志】

ご冥福を祈る

特別会員
藤村すゑ先生

昨年四月初、記念誌のための座談会でお元気にお話下さいました録音のお声も悲しい想い出となりました。

藤村すゑ　38年2月19日
川村花野　37年7月22日
櫛引友三郎　38年1月18日

ありがとう

佐伯信義

二年の東北旅行で、仙台支部の方々が、いつものように歓迎して下さいました。バス旅行でしたので、青葉城趾でお逢いし、可愛いいこけしを沢山いただきました。来年は関西、四国方面だそうで、しばらく御無沙汰いたしますが、皆様お元気で。

編集後記

こんどの会報は六十周年記念総会のご案内と、記念誌のことに重点をおいた。祝典後に報告号発行の予定

9東久保、35東佐藤

37年松桜会行事

4月4日　六十周年記念誌のための座談会（創立当時の事について）場所　仰光寮
12日　定例観劇会、東横ホール、若手歌舞伎、一等百三〇枚
22日　総会、場所、母校講堂、議事、二部は今春音大卒業生（母校出身）の演奏、整理券五十円、差引出費二千九百円
5月15日　幼稚園の創立記念日（八回目）並に同窓会
20日　記念誌のための座談会、午前（仰光寮拝受当時）、午後（旧校長大いに語る）
26日　定例観劇会、東宝歌舞伎、二等百枚
6月3日　記念誌のための座談会（駒場へ移転当時）
20日　定例観劇会、東横、市川女優座一等百枚
7月5日　定例観劇会、新橋演舞場、松竹新喜劇、一等百十枚
15日　松桜会便り発送
9月12日　定例観劇会、東横ホール、若手歌舞伎一等百枚
22日　母校学園祭、展示、演劇、音楽会
23日　食堂等、食堂は例年の通り評議員、幼稚園の先生、生徒会のご協力で純益一万六千余円、それを職員茶話会へ五千四百円、（品物で）生徒会へ六千円、幼稚園へ三千円、同窓会二千二百余円
10月1日　都制記念日、母校体育大会、例年の通り在校生と卒業生合同のコチロン
9日　母校二年生昨年同様東北地方へ修学旅行
13日　仙台支部の方々にいつもながらの歓迎、お土産に一同感謝
15日　記念事業のための観劇会、新橋演舞場、昼の部全館借切、新派、各級幹事の方々のご尽力により超満員の盛会、お弁当の事でご迷惑をかけた事はまことに申しわけなき次第、深謝、純益二十三万一千九百九十五円
17日　幼稚園秋季運動会
10月10日　定例観劇会、芸術座、悲しき玩具、一等百枚
11日　松桜会主催お茶会、場所、仰光寮、卒業生二席、茶道部一席
25日　記念誌のための座談会（駒場三代）仰光寮
12月1日　幼稚園のバザー、純益五万円
7日　定例観劇会、東横若手歌舞伎一等百枚
18日　幼稚園のクリスマス、理事代表出席
38年1月16日　定例観劇会、東横若手歌舞伎一等百枚
2月23日　芸術座、丼池、一等百五十枚
3月2日　劇団四季、間奏曲、一等三十枚
17日　母校卒業式、理事出席、例年の通り卒業生へ記念品（バッジ）贈呈
20日　幼稚園卒業式、理事出席、記念品贈呈
この他毎月第四月曜日午後は評議員会、記念誌編集のために学校側役員の方々と度々編集会議をつづける